

北海道の労働と福祉を考える会 会報

ともに生きる

2009年度 春号（第18号）



特集！2008年度総会報告

2009年度春号 目次

| | |
|-----------------------------|---|
| 特集2008年度総会の報告 | 2 |
| 労福会と考える（中村江里加） | 4 |
| 労福会の10年（木下武徳） | 5 |
| これも社会保障というべきか（嶋田佳広） | 6 |
| 事務局次長の「今年度の抱負」（澁谷洋平） | 7 |
| オオタキマサシの「もう読書するしかない！」（大滝雅史） | 7 |
| 「会員の皆様へ お知らせとお願い」 | 8 |

特集！！ 2008年度、総会報告

2009年3月28日、札幌市中央区にあるかでの2・7内にある1020会議室において、労福会の2008年度総会が行われました。当日は20名強の学生・社会人の方が参加し、一年間の報告とそれに基づいた活発な議論が交わされました。

当初の予定としては総会資料の順番に沿って、執筆責任者が各自報告し、その内容について質疑応答をするという予定だったのですが、各項目の質疑応答で、他の項目の報告内容にも関連するような質問や意見が出てきたため、一通り報告を行った後に意見交換などを行うという形を取りました。

今回は、これからの活動の展望とも関係する、総会の報告を行いたいと思います。総会資料についての

議論なので、2008年度総会資料を一読された後に、読んでいただくと、より内容が理解しやすいかと思えます。

ただし、繰り返しになりますが、各項目はそれぞれのテーマを超えて横断的に話し合われたので、今回の報告での区分も便宜的なものとなっています。そのため、各項目ごとに理解するというよりも、全体をまとめて、どのようなことが論点となったのかに注目して読んでいただければと思います。

なお、報告の見方は

○テーマ

・提案、意見など

→説明、補足
となっています。



○夜回り

・労福会自体の会としての方向付けが不明確

→何を目的として活動しているのか、その指針がはっきりしていないため、目的のために何をすればいいのかが見えてこない。例えば、夜回りをする目的が野宿者の支援であれば、声かけの方法などを話し合ったりと、システムティックに洗練させていくべきだし、学生を中心とした学びの場なのとしても、初参加者へのフォローが不十分だったりするためにその目的を果たせているとはいえない。

→(総会で話し合おうとした)夜回りの毎週化は、そうした議論を十分に踏まえた上で考えるべきであり、このまま活動頻度のみを増やしても、活動自体の質は上がらないのではないかな。



○炊き出し・相談会

・市と共催の時の相談会を「有効利用」するにはどうすればいいか

→「(生活保護受給者などで)不規則な生活をしている人にとっては、午前中に健康診断をやっても行こうとは思わないのでは」など

・野宿者以外の来場者(特に生活保護をもらっている人々)への対応をどうするか

→「野宿者でない」ということで問題ないと思えるのは間違い。生保でちゃんと生活できるだけの収入があるにも関わらず、炊き出しの会場に来ると言うことは、金銭管理が十分に出来ていないか、人間関係が希薄になって話し相手を求めて来ているという可能性がある。基本的には分け隔てなく接することで、相談などを聞くような態度が望ましいのでは。

・学生スタッフが炊き出し会場管理者側の指示に従順すぎる

→会場(かでの2・7など)管理者が「こうしなきゃダメ」と指示してきたときに、それに従順過ぎている、という指摘。主張を通すことで、行政の意識を変えることもあるので、時には強く主張するこ

とも必要であるので、条件を交渉したりするべき。



・同伴(生活保護申請付き添い)件数の減少について

→2008年度は同伴件数が減ったが、単純な件数の減少だけでなく、それ以外にも同伴したが、MLで報告されなかったケースや、役所以外に病院に同伴した数はもっとあったのでは。

→「行ったのに報告・記録されていない」とすれば情報管理の問題

○情報管理

・(生活保護申請などで)脱路上生活を遂げた当事者の情報が全く残っていないと、後から参照することもできなくなる。その問題点は、一つにアフターフォローの際に当事者の個別の情報不足が起きると言うことと、もう一つに別の似たようなケースに直面した際



に、過去の対応方法を参考にする
ことができない、ということ。

・しかし、同時にデータの保存はプ
ライバシーの問題でもあるため、管理
方法がしっかりしていなければ共有
は出来ない。

→一応、同伴記録を残すための用
紙を用意し（過去に使っていたも
のがあるらしい）、同伴を行った
際には記入。プライバシーの含ま
れる内容は、木下研究室に保管。

○会計

・会費を払った人が少ないというこ
とについて

→実際には、毎回活動に来て、
「会員」のようにしていながら
も、会費を納めていないものが多
いということについて、会費の集
め方がちゃんと決まっていな
いなどの問題がある。

また、会費の金額（学生3000
円、社会人5000円は適切か）の妥
当性の問題、（完全な未払いを防
ぐための）分割払いの提案、活動

に参加するようになった時期での
金額の調整（年度初めと年度末で
も同額なのか）、ML加入者から
の回収（会の活動に興味・関心が
あって情報を獲得しているのであ
れば、会の活動に賛同している
ということでもあるので、会費を納
めるべきでは）など。

・会の中心となって活動している会員
に一定額の「活動費」などを出すべ
きではないのか

→プラベートな時間を多く割いて
活動に参加しているのに、それへ
の手当てが全くないのでは、中心
になるメンバーの負担が大きい。
事務局長や次長、会計などの役職
に就いている者に「事務局活動
費」などの名目で報酬を出しては
どうか。

・同伴の経費が減っていることにつ
いて

→生活保護申請同伴の際にかかっ
た費用（交通費など）の請求額が
減っている。（前述の同伴とも関



係して）件数の減少だけでなく、
費用を請求していない（もしくは
請求できると言うことを知らない）
ということが関係しているの
では（例えば、何度か同伴した
が、その費用を請求していないも
のなどがいる）。

・（上と関連して）「会計」（経費）と
して、何の支出が請求できて、何が
請求できないのかが不明確

→会計ルールのも文化の必要（会
計ルールがはっきりと明示されて
いないと、会計担当のさじ加減次
第ということが起こりうるし、毎
回担当者に聞く手間が発生す
る）。これは規約以外のルールの
設定と言う事になるので、細則
（細かいルール）をはっきりと決
める必要があるということでもあ
る。

ちなみに、規約自体も実態に
沿っていない（「役職は2年間」
などを書いてあるなどする）た
め、話し合っ、改定する必要が
ある。

○役職ごとの職務内容

・「この役職はこれをする」という区
分がはっきりしていない

→「この役職がこの仕事を担当す
る」ということをはっきりと決め
ないと、仕事が消化できなくなる
し、責任も曖昧になってしまう。
例えば、会員名簿管理は誰が行
うのか決まっていな、など。

全体のまとめ

上記の内容をまとめると、

- 1、十分な話し合い
- 2、活動方針(労福会は何を目的として、誰がどのように
運営するのか)の決定
- 3、2に基づいて、具体的な活動内容を検討、各役職の
職務内容も決める
- 4、決定事項に沿って規約を改定、細則を作成

が必要ということになる。今回の総会では「今日だ
けで決めることはできないので、夏までに臨時総会
を開くということにし、それまでに論点の整理を行
い、総会場で決定とするのがよいのではないか」
ということで閉会となった。今のところ今年の6月
14日開催を予定している。その時まで論点を整理
し、方向付けを話し合う予定で、現在は夜回り前の
毎回の会議などでそうした内容について話し合っ

ている。

○2008年度事務局長の感想（大滝雅史）

今回の総会では、現在の労福会の運営が非常に多
くの問題を抱えているということが露呈しました。
もちろん、それは短期的なものだけではなく、長年
労福会が活動してきた中で積み重なってきた問題も
あるので、この一年間だけの話ではありません。し
かし、僕としては蓄積してきた課題を整理しようと
意識していたつもりだったので、まだまだ課題だら
けだったということは、非常に残念です。

ただ、課題が多いということはこれからの道のり
が険しいということをお知らせしますが、一方で課題自
体が認識されていなかった状態よりは進歩している
と言えるので、これから前向きに頑張りたいと思
います。中心になる事務局のメンバーは変わっても、
活動の軸がぶれないように続けて行きたいと思
います。

労福会と考える——新事務局長あいさつ

事務局長 中村江里加(北海道大学法学部3年生)

2008年度の総会が終了し、4月からは中村江里加が新事務局長、澁谷洋平が事務局次長になり、新体制ということで活動がスタートしました。新・事務局長の中村さんに抱負などを語ってもらいました。

2009年度の事務局長を務めさせていただきます、中村江里加です。「はじめまして」の皆様、「いつもの」みなさん、一年間どうぞよろしくお願いいたします。労福会は今年で10周年を迎えるので、「あれもやってこれもやって記念になる年にしましょう！」と言いたいところですが、2008年度の総会で話し合われたように、まず、これまでの活動を総括して、これからの労福会をどのような会にしていきたいのかを明確にする必要があります。まずはふりだしに戻って、会について・労働と福祉についてみんなで考えていかなければいけません。もっとも、このような作業こそ10年目にふさわしいのかもしれない。

労福会の10年の展開がある一方で、ひるがえって私の労福会での経験を振り返ると、労福会に参加する前と後では「生き方」「労働」「家族」「福祉」に対する考え方に変化がありました。つい先日、野宿者のおじさんが“普通”の生活、“普通”であることは難しいんだと話してくれました。この言葉は、昨年的一年間をととして私が実感してきたことを言い当てています。私が



2008年度総会(3月28日)から。新・事務局長として抱負などを語る中村さん

“普通”だと思っていた人生・労働・家族の形、当たり前な形は、私が恵まれた環境で成長してきた結果なのではないか？では、福祉はどうあるべきか？

もう一点、昨年度の活動を振り返って印象に残っていることは、労福会の知名度と野宿者問題(貧困問題)への関心の高まりです。夜回り、炊き出しには毎回多くの市民ボランティアが参加して下さいました。そのような参加者の姿を見ると、社会問題を考える上でとても勇気づけられました。また、野宿者からかつての労福スタッフの話や、先輩スタッフが残した活動の軌跡の上に今の活動が成り立っていることを思い知らされました。

最後に私の一年の目標です。労福会のこれまでの活動は(説明の便宜上とお断りして、)簡単に分類して言うならば3つの立場の人たちに働きかけるものでした。すなわち、3つの立場とは①生活に困っている人②そのような人たちの自立を支援しようとする人、そして③前者と後者の立場・スタンスではない人という三者となります。これらの三者とともにたとえば、①支援したり②勉強したり③説明したり、してきたのだと思います。労福会には、これら三方向の活動がどれも重要で、先輩方も大事にしてきたのだと理解しています。そこで、私も同じように労福会に参加するスタッフが三方向の活動をする足場を大切にしながら、自分なりに試行錯誤しながら労働と福祉について考えていきたいです。

労福会の10年

代表 木下武徳(北星学園大学社会福祉学部 准教授)

ホームレス問題・貧困問題に関わる支援活動が広がってきたことは、それだけ貧困問題が深刻化していることを反映しているということでもある

2009年になり、労福会設立から10年目を迎えることになりました。北海道大学教育学部の椎名先生のゼミ生を中心として始まった労福会の活動が10年もの間続き、いまでは北星学園大学や札幌学院大学等の学生も参加し、市民の参加も増えてきました。また、私が参加し始めた2004年以降でも、代表・副代表の交代、夜回りの定例化、炊き出しの会場の変更等いろいろ変化がありました。

一方、社会の状況も変わってきました。それまではあまり貧困問題には関心がもたれていませんでしたが、2006年頃から「格差社会」が議論となり、派遣労働者等の非正社員を中心とした貧困問題にも目が向けられ、2008年秋以降は世界的な金融危機により、「派遣切り」など雇用喪失が、収入のみならず、住まい、家族、さらには希望さえも失う問題であることが大きくクローズアップされるようになってきました。

このような社会の流れの中で、ハンドインハンド、みなずきの会、なんもさサポート、ビッグイシューさっぽろ、司法書士会、札幌市などホームレス支援をしてきた団体とも連携を強く持つようになってきました。最近では、道労連等が労働・生活の相談支援をする「SOSネット」を立ち上げ、連合北海道も家を失った人の再就職支援の「駆け込み寺」を設置したりする活動が行われたりしました。

◆
このようにホームレス問題・貧困問題に関わる支援活動が広がってきたことは、学生中心のボランティア団体である労福会としては心強いことです。一方で、それだけ貧困問題が深刻化していることを反映しているということでもあります。残念ながら、これからの経済発展の拠点は中国やインド等であると言われる、中長期的にも日本、特に北海道の経済が大きく改善する見込みはあまりありません。

ただ、それでも日本の経済力はいまでもかなり大きなものです。食料の入手に困っているホームレスの方がたくさんいる一方で、大量の食料がいまでも捨てられていることには変りはありません。労福会が社会や経済のあり方を変えろということは難しいでしょうが、労福会の活動を通して、一人でも多くの方が安心して暮らせる機会を得られたり、このような社会や経済のあり方を変えたいと思う人が増えたりすることによって、生活に困っている人が幸せに暮らせる社会に一歩でも近づけることができればと思います。

◆
労福会のこれからの10年は、これまでの10年とはまた異なる10年となるでしょう。しかし、より多くの学生や市民、諸団体の方と共に、ホームレス問題・貧困問題について考え、支援活動をしていくということはこれからも貫いていきたいと思っています。



総会で参加者の発言に耳を傾ける木下代表

これも社会保障というべきかー追加経済対策雑感

副代表 嶋田佳広(札幌学院大学法学部 准教授)

みなさまこんにちは。札幌学院大学の嶋田です。今年も続けて副代表を仰せつかったようで、微力ながら貢献して参りたいと考えています。何とか新人を発掘したいですね。大学では年度が代わり、教室が見つからなくてマゴマゴする1年生でゴった返しているのを見ると、自分にもこんな頃があったなあと、スリッパでスイスイ構内を移動している毎日です。

さて、昨秋の「リーマンブラザーズショック」あたりから始まった世界金融危機は、世界経済危機にまで変貌し、いまや私たち一般市民の暮らしにも、いろいろなかたちで波及してきました。年末の派遣村がスポットライトを浴びたのも、社会全体での不安の裏返しなのかもしれません。いずれにしても地滑りの日本社会がずり落ちていく、終わりの始まりのような年に2009年になってしまわないよう、それぞれできることを一生懸命やっていきたいですね。

そうこうしている間に、各国で種々の経済対策が打たれており、うち日本でも、21年度補正予算で15兆円規模の追加経済対策をおこなおうということになっています。内容は、エコカーあり省エネ家電あり学校の耐震化工事ありのてんこ盛りで、この際だからというものまで含まれているようですが、関連して三点(ドイツ人のように！)指摘したいことがあります。

一つは、「緊急人材育成・就職支援基金(仮称)」を設けて、雇用

保険の対象とならない人たちに職業訓練や住宅補助などをおこなうという支援策について、これは雇用保険と生活保護の隙間を埋めるものとして期待されているようですが、それはそれで結構だけれども、雇用保険にせよ生活保護にせよ既にそれ自体に大きな穴が空いてしまっている現状を所与の前提とした施策であってはならないという点です。雇用保険に入りにくく、生活保護を受けにくい「運用」にしてきたことへの反省とセットで取り組んでほしいところです。

二つ目に、「子ども手当」なる給付が触れられ、これは現行の児童手当との関連など詳しいことが公



表されていないので感想限りの話ですが、社会保障法の基本的な理屈からいうと、どうい「社会的リスク」に対応するのかー例えば子ども自体への給付なのか、子供を持つ親への支援なのか、丸ごと家族を対象にしているのかー見た目からは明らかでない点です。難しいこと考えず、どうせお金だし、あったらあったでいいじゃないか、という受け止め方もありですが、定額給付金に代表されるリスク非対

応型のそれこそバラマキは、権利性という視点からは実は考え物で、思いつきで「社会保障的なもの」を拡大するのは、実はその逆もありうるということです(社会保障2200億円圧縮もうやむやになっていますがどうなってるんでしょう)。少し気をつけたいところです。

第三として、官僚機構の弱体化が背景として大きいと思います。が、経済対策をはじめとして近年の政策はあまり練られていない傾向が強く(給金はその典型ですね)、それだけに「モレ」が非常にでやすい点です。とりわけ最後の適用のところで「いやよく分かりません」「対応できません」としてはねられてしまう可能性が政策の段階から生まれてきているのは、精緻な行政を誇ってきた日本としても危機的です。しかしそうであるからこそ、点検闘争・遵法闘争ではありませんが、とどのつまりのところを丁寧に見ていく必要があるのだと思います。その意味で、究極の「モレ」としかいいようのない、

「ホームレス」という存在は、社会の矛盾を認識しどう解決していくかを考え行動するまさにその現場でもあります。

いろいろあるでしょうが、今後幅広くつながって頑張っていきたいと思います。



事務局次長の「今年度の抱負」

澁谷洋平（北星学園大学社会福祉学部3年生）

皆様こんにちは。北星学園大学3年の澁谷洋平です。今年度、事務局次長やらせていただくことになりました。よろしくお願いします。

まだ、労福会の活動にかかわり始めてから半年ほどしか経っておらず、経験や知識は少ないです。それを補うために精一杯関わっていきたいと思います。一年後には、「充実した一年だった！」と言えるようにしたいと思っています。

今年度の自分の抱負として、学習会に力を入れていきたいと思っています。学習会を行う意義は、自分たちの能力の向上のため、世の中の現状を知るため、などです。当会が今まで受け継いできた、『学生主体』という言葉の土台において、学生らしい『学び』と『考える』という態度を生かすことができる活動を行っていけたらと思っています。

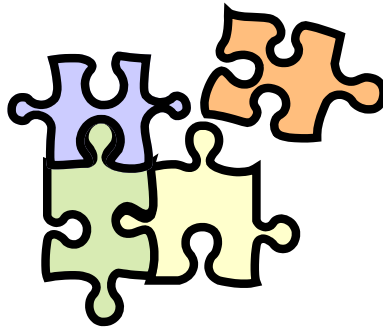
現在は、北星学園大学で週1回、昼休みを利用して学習会を行っています。内容は貧困問題や労働問題など、自分たちの気になる問題について調べたり、議論したりしています。夜回りで気になったことや、炊き出しの感想や反省なども行っています。

また、今年は労福会の活動と関連するような色んな施設や団体の見学なども考えています。

今まで何も目的を持たずに送ってきた学生生活でしたが、労福会と出会ってから刺激が与えられた気がします。「これだ！」と思うものに出会うことができたような気がします。

労福会の活動は、毎日が勉強になっているし、貴重な経験になっています。特に札幌の街の見方は180℃変わりました。今までは普通に通りすぎて行った街が、野宿者の方々の存在を気にしながら通り過ぎていく日々へと変わりました。毎日の生活にも現在の問題と関わろうという意識が生まれるのは、当会の魅力の一つではないでしょうか。

これからも精一杯がんばって生きたいと思っていますのでよろしくお願いします。



今年度の活動予定

5月10日
札幌市との意見交換会
5月30日
炊き出し・相談会
6月14日
臨時総会
6月末
炊き出し
7月
寄せ場交流会
8月
ホームレス概数調査
9月末
炊き出し・相談会
10月
炊き出し
1月
ホームレス概数調査
3月
総会

その他、毎月第1、第3土曜日に夜回りを行う予定です。

オオタキマサシの「もう読書するしかない!!」



一応、文学部の学生である大滝が独断と偏見で書評するコーナー。今回は一回目なので、「労働と福祉を考える会」のテーマに沿った「マトモな」本から。

85

今回、紹介するのは堤未果氏の『ルポ 貧困大国アメリカ』（岩波新書）。この本は新自由主義の徹底したアメリカで生活する人々が、どのような問題に直面しているのかを、多くの証言を通して明らかにしている。

それによると、市場原理主義が強く働く社会においては、あらゆるサービスの「コスト削減」が波及されるため、本来行われるべきサービスまでもが享受できないということが起こりうるという。例えば病院に行って治療を受けても、保険会社が支出を渋るため保険が適用されないといった例。そうした社会では、大多数を占めるはずの「中流」の人々が、ふとしたきっかけ

で一気に貧困層に転落するということが起こりうる。さっきの病院の例で言えば、保険が適用にならないために、一回の出産だけでも2万ドル（仮に1ドル100円だとしても、200万円）も請求されたという話も書いてある。

インタビューが多く載っているために、文章自体は非常に読みやすいが、そこで示されている内容は生易しくはない。特にこの本の恐ろしいところは、そうした新自由主義の徹底した社会というのは、政府などによって一方的に押し付けられたものではなく、「安ければ安いほどいい」という人々の願望に裏付けられたものであるという点だ。つまり、福祉制度のコスト削

減などは彼らが望んだことであるとも言えるのだ。このように、短期的な利益を求めることが、長期的には自分の首を絞めることになっているのだ。

だから、この問題は本書の帯びにあるように、日本人にとっても「他人事ではない」のだ。日本においても多くの人が「安さ」を追求すれば、それは短期的には利益になるが、長期的には不利であるかもしれないのだ。

だから、私が言いたい「恐ろしさ」は容易に貧困に陥る社会の姿だけではない。むしろ個人の生活のあり方を棚上げして考えることの出来ない問題というのが本当に恐ろしいのである。

会員の皆様へ お知らせとお願い

○ 臨時総会について

総会報告でも触れられていましたが、総会中に挙がった課題を検討し、話し合うために臨時総会を行うということが決定しました。日程については、6月14日（日）夕方以降の開始を予定しています。詳細については、決まり次第、郵送でご連絡いたします。

○ メーリングリストについて

労福会の活動内容については、メーリングリストを使用して連絡の円滑化を図っています。詳細な活動情報などをお知りになりたい方は、そちらへの登録をお願いします。登録方法については、労福会のホームページに詳細が記載されておりますので、そちらをご確認いただき、規約に同意いただいた上でご登録いただくようお願いいたします。

○ 広報媒体について

総会資料にも記載がありますが、公式ホームページ（<http://roufuku.org/>）以外にも、活動報告や活動予定を掲載するためにブログを作成いたしました。更新は広報担当の大滝が行っております。URLはこちら（<http://roufuku6029.blog95.fc2.com/>）ですので、ぜひ一度ご覧ください。

○ 会費・寄付について

また、毎年のことで恐縮ですが、労福会の活動はみなさまの会費・寄付に支えられて成り立っています。会費は社会人5000円、学生3000円、賛助は個人10000円・団体20000円となっております。振込先の口座は郵便局からは02730-0-37163で、口座名称（加入者名）は「北海道の労働と福祉を考える会」、他の金融機関からは二七九（ニナナキュー）店（279）、当座0037163です。ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。また、会費振込みの場合には、通信欄に「会費」と記載していただくよう、お願いいたします。

編集後記

ここ数年の労福会が抱える課題として、広報の不備というのが挙げられます。特に広報紙（会報）が、一年間に一度しか発行されていないというのは大いに問題があります。活動の報告などをちゃんとしていないにも関わらず「寄付をお願いします」というのは、失礼極まりないでしょう。そのため、今年度は、少なくとも年に4回発行する予定です。おそらく3ヶ月ごとの発行になると思いますので、今回は「春号」と名づけました。

広報紙の内容について、何かご要望・ご意見などございましたら、下記の連絡先までお願いいたします。

<発行元>

北海道の労働と福祉を考える会
〒004-0861
札幌市厚別区大谷地西2-3-1
北星学園大学内 木下武徳研究室
編集責任者：大滝雅史
ホームページ：
<http://roufuku.org/>
ブログ[sapporo路上通信]：
<http://roufuku6029.blog95.fc2.com/>

<連絡先>

電話 090-7515-8393（中村）
E-mail info@roufuku.org

木下（代表）に御用の方は、北星学園大学の
代表番号から木下武徳研究室に繋ぐか、
kinoshita@hokusei.ac.jpまでお願いします。